

地域交流スペース

よろず相談所『興学院』



平成22年 西区で、孤独な若いお母さんが育児放棄し、幼児2人をワンルームマンションに閉じ込め、その上部屋から出れないようにガムテープでドアを固定して、約3週間ほど出て行きました。

幼子2人は、最後は水だけで、凌いでいたのでしょうか。その間も、マンションのインターホンからは、「ママ！ママ！」と悲痛な叫び声がつづき、住人たちの通報で、保育関係者がかけつけましたが、その時には応答も無く、部屋に立ち入る権限も無く、母親が戻ったものと思ひ帰りました。その後、やせ細った2人は、お姉ちゃんが弟をかばうように、重なりあって、餓死しているのが発見されました。

この事件を知り、商店街の空き店舗を活用して、このような幼児や、これから増えるであろう介護疲れによる高齢者への虐待時の「一時あづかり所」を開設出来ないかと考えました。しかし、商店街の空き店舗は老朽化し、その建物を耐震改装し、水道光熱費・家賃等の費用の捻出が、大きな壁となりました。

今回、橋下市制で『保育ママ』の制度が、発足しました。この制度を利用して、空き店舗を保育ママの施設として活用することで運営費用を捻出し、他の場所を商店街と地域住民組織とのコミュニティーの場や、虐待時の一

子育て・介護・福祉など、地域の支援サービスを行っています

時預かり所として利用できます。

この企画は、平成24年度11月に経済産業省の“中小商業活力向上事業”の『商店街の寺子屋・興学院』として採択されました。残念ながら、商店会役員の土壌場の反対で、経済産業省へ採択辞退するように追い込まれました。今まで役員会や議事録作成等で賛成していたのに、それをすべて忘れて反対するとは、なんと無知な連中かと思うと反論する気にもならず、情けなくなりました。採択されるまで、経済産業省や大阪市経済局の担当職員さんが、言葉に言い表せないほどの多大な御協力いただいた事に感謝し、私なりにその責任の取り方として、3月31日迄に会長としての仕事をすべて終わらせ、黒崎東商店会会長を辞任致しました。

この『興学院』が、地域の交流の場となり、保育疲れのお母さんや親の介護疲れの人達の安らぎの場となり、地域住人組織との交流の場となる事で、商店街及び地域の活性化につながるのに、大変残念でした。

その後は、わたくし個人の事業として、耐震改装し商店街の保育ママ施設『興学院』の開設を目指してきました。

この8月に、北区役所福祉課より“こども青少年局より開設許可が下りました。”との連絡をいただきました。

12月より、まるでジブリの世界のような、古民家の木の香りや壁のぬくもりを生かした家庭的な雰囲気の中で、“商店街の保育ママ『興学院』”として運営し、フリースペースで“子育



てよろず相談所”・“まちともサース”や“地域の皆様とのコミュニティーの場”として運営致します。

わたくしどもの運営する“商店街のよろず相談所『興学院』”は、利益を追求する組織ではございません。

一緒に働いてくださる地域の皆様と共に、少しでも地域コミュニティーに協力し、育児疲れの幼児にたいする虐待や、介護疲れによる高齢者への虐待を防ぐ、楽しく明るい施設を目指しています。どうぞ お茶を飲みかたがた、気楽に何なりと御相談においで下さい。

また月に一度、大阪大学との連携事業として開催している“中崎北天満サイエンスカフェ”も77回目を迎えます。毎回テーマを変えて、大学の先生方に来ていただいています。こちらも無料で、参加・退室自由ですので、ぜひ一度御参加下さい。

中崎北天満商工倶楽部 会長
青山隆一



北天満サイエンスカフェ



北天満サイエンスカフェは、天五中崎通り商店街（おいでやす通り）で行われている、まちづくりと地域活性のためのプロジェクトです。お茶を飲む気軽さで、科学者と一般の皆さんが議論・交流する場を提供しています。

■過去の催し物のご紹介



第70回「こども面白サイエンスカフェ14」こども面白サイエンスカフェということで、商店街を通りがかった親子連れの方々と一緒に身近なもので科学を体験しました。

第69回「国境を越える大気汚染PM2.5って何？」冬から春にかけて多く飛来するというPM2.5について兵庫県立大名誉教授の河野仁先生から話題提供頂きました。



■詳細はHPでご確認ください

<http://kitatenma-cafe.com/index.html>



<http://www.kitatenma-cafe.jimbo.com>